資料１０

県立障害者支援施設の方向性の検討について

県立障害者支援施設（以下「県立施設」という。）について、当事者目線の障がい福祉に係る将来展望検討委員会(以下「将来展望検討委員会」という。)の報告や中井やまゆり園における利用者支援の課題等を踏まえて、その方向性を検討するため報告する。

(1)　県立施設に関する現状

ア　将来展望検討委員会の報告（令和４年３月）

(ｱ)　県立施設の課題

- 県立施設は、民間で受け入れることが難しい強度行動障がいのある人等を引き受けるという役割を担っていたが、現在は利用者支援やガバナンスの課題が指摘されている。
- 一方、民間の中には、グループホームにおいて強度行動障がいのある人に対して適切な支援を行っている先進事例や、入所施設においてもユニット化、個室化して専門性の高い支援を行っている取組が存在する。
- 中井やまゆり園や愛名やまゆり園のような県立の大規模入所施設は、管理的、閉鎖的な支援環境に陥りやすいという構造的な課題がある。

(ｲ)　県立施設の方向性

入所施設は通過型のサービス提供に重点化し、県立施設は率先して地域生活移行に取り組む。また、規模を縮小の上、民間移譲も視野に入れた検討を行う。

(ｳ)　県の役割の方向性

福祉に関する先進的な研究や人材育成は、県の役割である。

イ　中井やまゆり園における利用者支援の課題

県立中井やまゆり園における利用者支援外部調査委員会の調査結果（令和４年４月）では、組織の風通しの悪さや職員の支援技術の不足等が指摘されている。

ウ　施設の老朽化及び大規模施設

- 三浦しらとり園（昭和 58 年築）や愛名やまゆり園（昭和 61 年築）は、老朽化対策等の検討が必要になっている。
- 津久井やまゆり園や芹が谷やまゆり園は、1 ユニット 11 名で定員 66 名といった小規模ユニットケア施設に再整備したが、それ以外の施設は、定員 100 名を超す、従来型の大規模施設であるため、当事

者目線の支援が困難な状況にある。

エ　高齢化の進行

厚木精華園については、60歳以上の入所者数が70%を超えており、高齢化が進行している。

(2)　今後の方向性を検討する上での視点

- 県立施設は、当事者の地域生活移行を進め、通過型施設を目指していくことが必要である。このため、福祉人材やグループホームの確保など、社会資源の充実をはじめ、障がい者への更なる理解の促進や当事者の地域生活を支える相談支援の充実といった施策を検討する。
- こうした通過型施設のほか、県立施設に求められる役割を明確にする。
- 県立施設に求められる役割を果たすために、相応しい組織執行体制を検討する。

（参考：県立障害者支援施設の概要）

施設名 （所在地）	管理方法	主な対象	定員	築年数 （部屋）
さがみ緑風園 （相模原市南区）	直営	身体障がい者	100人	築20年 （個室中心）
中井やまゆり園 （中井町）	直営	知的障がい者	140人	築22年 （個室・多床室）
芹が谷やまゆり園 （横浜市港南区）	指定管理	知的障がい者	66人	新築 （個室）
津久井やまゆり園 （相模原市緑区）	指定管理	知的障がい者	66人	新築 （個室）
愛名やまゆり園 （厚木市）	指定管理	知的障がい者	120人	築36年 （多床室中心）
厚木精華園 （厚木市）	指定管理	知的障がい者	112人	築28年 （多床室中心）
三浦しらとり園 （横須賀市）	指定管理	知的障がい児 知的障がい者	40人 112人	築39年 （多床室中心）